寂光院は千手観音様のお寺です。古くから宗旨宗派を超えて霊験あらたかな「継鹿尾の観音様」と親しまれてまいりました。

さて、「観音経」には観音様は「この娑婆世界に遊びたもう」と説かれています。この場合の「遊ぶ」というのは「遊学（故郷を離れて外国で学ぶ）」という表現と同様に「目的のために故郷を離れて他の土地に行く」という意味ですから、観音様はもともと、この娑婆世界の方ではありません。観音様の故郷は阿弥陀様の世界、西方極楽浄土です。阿弥陀様の命令でこの娑婆世界（つまり我々の住むこの世）の苦しみ悩みを救わんがために派遣されてみえたのです。



代受苦
施無畏

犬山・寂光院山主
松平實胤（まつだいらじついん）

りますね。（観音経では、観音様は「大悲代受苦」でこの世に一人でも苦しみ悩む人があれば、絶対に故郷極楽浄土に帰らない。つまりこの娑婆にとどまり続けるというお誓いを立てられた菩薩様です。だから私たちはいつでも安心して観音様を念ずればいいということです。）

さて、三月十一日午後二時四十六分、東日本を襲った大地震、大津波で亡くなられた方は四ヵ月を経た七月十日現在一五、五四七名、行方不明の方五、三四四名、この二万を超える人々はまさに観音様でいらっしゃいます。私達の代わりに苦を引き受けられたとしか言いようがありません。地震や津波の被害は日本中いつどこで起こるとも限りません。間違いなく代受苦の菩薩の役目を終えて極楽世界に戻られました。

原子力発電所は全国に五十四基あります。原発事故も日本中いつどこで起きるとも限りません。今避難を余儀なくされて不自由な生活を送らざるを得ない被災地の皆さま方はまさに観音さまです。私達だったかもしれませんのに、私達の代わりに苦を引き受けてくださっているとしか言いようがありません。

そして私も観音様なら、被災地の皆様の心を我が心とせねばなりません。人の一生はまさに菩薩としての一生です。いま私達に問われているのは「やるのではなく、させていただく」、「あげるのではなく、もらっていただく」という心ではないかと思います。

その救う方法はまず「代受苦（だいじゅく）」、つまり相手の心をわが心として、相手の苦しみを代わって引き受けてくださる、ということです。そして「施無畏（せむい）」、不安や恐怖を取り除いて大丈夫だよという安らかなる心を与えてくださるということです。そこで観音様は三十三に姿を変えると説かれます。三十三という数字はありとあらゆるという意味です。相手に応じて姿を変えるというのですから、この世に六十五億の民あれば、六十五億とおりの観音様がいらっしゃるということです。ということは私の隣の人は観音様かもしれません。いや、観音様なんだということです。そしてその観音様はこの娑婆世界で菩薩としての役目を終えて寿命が尽きたら、また故郷「極楽世界に」お帰りにな

必見！！　寂光院ホームページ　www.jakkoin.com